

## 努力事項解説 その3 (小学校音楽)

児童の実態とねらいに応じて、多様な学習形態を取り入れ、  
友達と思いや意図を共有しながら音楽表現をして、  
協同する喜びが感じられるような授業を展開しましょう。

「児童の実態とねらいに応じて、多様な学習形態を取り入れ」とは

児童の思いや願いを実現するために、合唱や合奏、重唱や重奏などの表現形態を選んで学習できるようにしましょう。

ということです。

高学年になると、児童は自分の表現を大事にするようになり、表現活動に対して自分の思いや願いを強くもつようになります。また、音楽的な嗜好が強まり、自分にとって興味のある活動を一層深めたいという気持ちも強くなります。

ですから、高学年（第5学年及び第6学年）の表現活動では、学校の実情や児童の興味・関心などを十分に考慮しつつ、次のポイントに配慮して、児童が表現形態を選択してより楽しい学習を進めるとともに、より豊かな音楽表現を求めて活動できるようにしましょう。

- 1 合唱や合奏、重唱や重奏等、児童が演奏形態を選択できるように計画しましょう。
- 2 児童が思いや願いを生かして学習できるよう、できるだけ、教材（楽曲）を複数準備しましょう。
- 3 児童が表現の喜びを感じることができるような、魅力ある教材（楽曲）を選択しましょう。
- 4 学級全体で話し合っ合唱か合奏かを決めたり、生活班などのグループごとに重唱か重奏かを選んだりして、児童が主体的に、活発に学習活動を進めることができるようにしましょう。

「友達と思いや意図を共有しながら音楽表現をして、協同する喜びが感じられるような授業を展開しましょう」とは

合唱や合奏などの活動で全員で一つの音楽をつくったり、重唱や重奏などの活動で友達と思いや意図を共有しながら音楽表現したりする体験を通して、協同する喜びを感じることができるような指導を重視しましょう。

ということです。

例えば、学級やグループで教材（楽曲）を選択するときには次のことに配慮しましょう。

- 1 なぜ合唱（あるいは合奏）の形態にしたいのか、「音楽の要素」と関連させて話し合いをさせましょう。
- 2 この教材（楽曲）を選んだのは、どこが気に入ったのか「音楽の要素」と関連させて話し合いをさせましょう。

これは、児童にその楽曲に対する思いや意図を共有させ、その後の音楽活動を主体的にすることがねらいです。例えば、

Aさん 僕はこの曲の「ズチャッ、チャッ、チャッ、チャッ」、っていう弾んだ感じのリズムがとても気に入っています。うきうきして自然に身体が動き出してしまうからです。だから、この弾んだ感じが出せるようにリズムをきちんと歌いたい（演奏したい）です。（音楽の要素：リズム）

Bさん 私もそう思います。とっても軽快なリズムで自然に体が動き出してしまう。私はこの曲の軽快さが出るように、音符の長さを短めに、スタッカートで演奏すると思います。（スタッカート：アーティキュレーションのひとつ）

Cさん 僕は、この曲の元気のいいところが好きなので、全体をフォルテで、元気よく演奏したいです。（音楽の要素：強弱）

など、音楽の要素と関連させながら、児童個々の思いを発表させ、それに関して意見を言わせるなどして、児童の思いや意図を共有させるとともに、その後の活動に主体的に取り組ませて、協同する喜びを味わわせていきましょう。



今回は、中学校の努力事項「民謡、長唄などの我が国の伝統的な歌唱や和楽器による表現活動などの指導の充実を図り、生徒が伝統音楽のよさを味わうことができるように工夫しましょう。」について考えていきます。

9月27日（金）頃アップする予定です。